

## 暖地型牧草の雑草防除試験

黒江 秀雄・折田 安行

(鹿児島県畜産試験場)

暖地型牧草は、初期生育が遅く雑草との競合が問題となっている。そこで安定した生産をあげるために、雑草防除対策を立てる必要がある。本試験は、除草剤を用いず、栽培法ならびに機械化による雑草防除法を知るために実施した。

### 試験方法

1. 土壌深度別発芽雑草本数調査 1) 調査地点飼料畑は3ほ場6地点で、永年草地は2ほ場2地点について調査。2) 土壌深度 0~10cm, 10~20cm, 20~30cm, 30~40cm。3) 調査方法 土壌を水稻育苗箱に3.6kgずつ入れ、プラスチックハウス内で発芽させ、雑草の種類毎に発芽本数を調査した。

### 2. 栽培法ならびに機械化による雑草防除試験

1) 供試牧草 シコクビエ, ローズグラス。2) は種期 1976年5月13日。3) は種量および種法 2kg/10a, 散播。4) 施肥量(kg/10a) 基肥: 苦土石灰100 鶏糞210, N 10, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 20, K<sub>2</sub>O 10, 追肥: N 10, K<sub>2</sub>O 10(刈取後)。5) 刈取法および刈取り高さ 手刈り, 10cm。6) 処理。

みると、1番刈時では、両草種ともプラウ区がロータリー区より若干収量は多い傾向が認められた。雑草収量は、耕起法による差は認められなかった。

4. 雑草率は、シコクビエ区の方がローズグラス区より高かった。また、耕起法別では、ロータリー区がプラウ区より若干高かった。雑草の減少割合は、早刈区より遅刈区の方が高く、D区>C区>B区>A区の順であった。

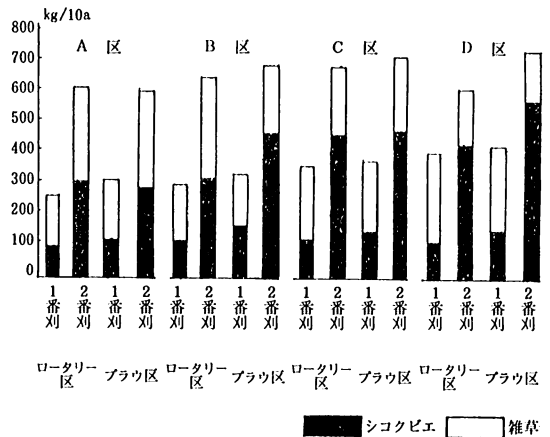


図1 乾物収量(シコクビエ区)

草種	耕起法	刈取時期(は種後日数)			
シコクビエ区	ロータリー区	A区	B区	C区	D区
ローズグラス区	プラウ区	63日	68日	73日	78日

### 結果および考察

1. 耕起前土壌深度別発芽雑草本数についてみると、雑草本数は、同一ほ場においても調査地点によりかなりのバラツキが認められた。飼料畑と永年草地では、飼料畑の方が雑草本数は多かった。土壌深度別では、10~20cmが最も多く、ついで0~10cmが多く、20cm以上は少なかった。

2. 耕起後発芽雑草本数については、ロータリー区がプラウ区より若干多い傾向にあった。

3. 乾物収量についてみると、シコクビエ区よりローズグラス区の方が牧草収量は多かったが、雑草収量はシコクビエ区がローズグラス区より多かった。耕起法別に

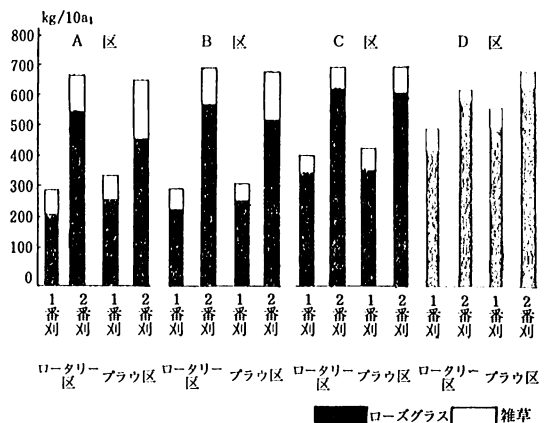


図2 乾物収量(ローズグラス区)